



幸樹

こう じゅ

第43号

2018年10月1日

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-710-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司

スポーツの秋・文化の秋・食欲の秋、企画もいっぱいです。ぜひご参加を。

勇美財団助成事業企画 第1回「在宅看取りについて語り合しましょう」

●10月12日(金)14:00から16:00 ●場所・あつまーれ幸樹(旧からたち薬局)

●ミニ講座講師:高林克日己先生(三和病院) 看取り経験や関心のある方々で共に語り合しましょう

第17回地域交流カフェ 10月16日(火)

●大運動会 12:00から、さんしょうリビング

食事会の後、玉入れ、借物競争、スリッパとぼし、その他

●文化祭(作品展) 16日・17日、あつまーれ幸樹

ご利用者・地域の皆さん・職員などのさまざまな力作を展示、作品募集中です。



あんず畑・芋ほい大会 10月20日(土) 落花生収穫も

●幸樹会館10時集合、あんず畑10時30分集合、12時からさんしょうで食事交流会



「介護者のつどい」 11月1日(木)、14:00~15:00、場所:あつまーれ幸樹

主催/東部高齢者いきいき安心センター 協力/幸樹会 ●介護についての思いを語り合う集い

八柱学習会(定期勉強会)

9月21日の八柱学習会で、「ご利用者を理解し、母のままでいられることを支援する」というテーマで、柴田和子さん(80歳)のことをお話させていただきました。その概要を報告します。(大塚かすみ)

「めか漬けならまかせて！」

母の変化がうれしいと娘さん

昨年11月頃から、和子さんに、突然外に飛び出す、叫ぶ、幻視などの病状があらわれました。

専門医療機関を受診すると、「レビー小体病・ピック病複合型認知症+進行性核上麻痺」との診断を受けました。レビー小体病・ピック病は、アルツハイマー型でも脳血管性でもない認知症です。レビー小体病は、レビー小体という異常な蛋白がたまり、脳の神経細胞が徐々に減っていく病気で、時間や場所、会話の理解が良い時と悪い時が変動し、幻視や、身体や表情が固まり運動がぎこちなくなるなどの症状がでてきます。

ピック病は、前頭葉側頭葉が委縮していく病気で、



「糠はそのくらいの分量ね」

不適切と思われる行動、同じことを時刻表のように毎日繰り返す行動、ひきこもり、無関心、無口などの症状がでてきます。

進行性核上麻痺も大脳・脳幹・小脳の一部の神経細胞が委縮し、

転びやすい、眼球の動きが悪く下方が見えにくいなどの症状がでる難病です。

24時間目が離せないのも、一番頼りにされている娘の美砂子さんがやむなく仕事をやめ介護に専念しましたが、自分の受診もままならなくなりました。服薬で症状は徐々に落ち着いてきましたが、通っていたデイサービスにも行けなくなり幸樹会に相談があり、美砂子さんもさんしょうの見学に訪れました。看多機・小多機には活動圏域があり、“越境”するには松戸市への相談が必要で、やりとりの結果了承され、5月から和子さんのさんしょう利用が可能になりました。

さんしょう利用の当初、和子さんは会話も少なく無表情で楽しそうではありませんでした。職員のケアも、娘さんの介護負担の軽減のための入浴介助などがケアの目標・内容になっていました。



なかよしの柴田和子さん(左)と大岡カヨ子さん

そこで、実践研修の機会に、病気を知るとともにもっと和子さんを理解して、ケア内容を見直そうとカンファランスを行ないました。高校卒業後、お琴の先生をやり、家事は大好き、大工仕事もこなし、和裁・手芸も得意、絵も楽しみ、世話好きで近所のまとめ役などの和子さん像が見えてきました。

ケア目標を、「和子さんのやりがい、生きがいをみだし、居心地のよい環境を整える」に設定し、現在も美砂子さんと一緒にしている家事に着目しました。糠漬けが得意ということなので、和子さん中心に糠床づくりを他の利用者とともにおこない、「糠床管理表」をつくり、毎日の糠床のお世話は利用者・職員がやり、和子さんが通いで来る木曜日に来栄えを「管理」してもらうことにしました。出来上がった糠漬けは、とてもおいしくご利用者に好評です。

お隣のご利用者がむせたりすると、背中をさすったり、「大丈夫？」とお世話をしてくれるようになりました。夏まつりで、盆踊りも楽しみました。

娘の美砂子さんは、「私のことを“お母さん”って言っていた母が、『私は母として、あなたに伝えておかなきゃいけないことがあるわね』と言い出したんです。さんしょうでみんなと交流する中で、母としての自覚を取り戻したみたい。私と二人だけでは、こんな母に戻ることは無理だったと思います。『話がかみ合わないけどね』とゲラゲラ笑いながら利用者の方との話をするんです。あんなに笑っている母を久しぶりにみました。お世話できたのもうれしいみたいです。私も余裕ができ、こんな母の様子をみると、涙がでるほどうれしいです」と語っています。学びが多く、今後のケアに活かしていきたいとくみになっています。

▼次回学習会予定(「定例日:毎月第3金曜日」)

●10月19日(金)、18:30~、

「認知症ケア実践者研修報告」

報告・原 広和(さんしょう・介護福祉士)

場所:幸樹会館2階会議室《参加自由》

こわたりでこ

木幡秀子さんに インタビュー

生徒に慕われた教師時代

お生まれは？

木幡 父が三井物産・日東紅茶に勤めていた関係で、昭和5年の台湾生まれです。三人兄妹の末っ子で、上二人は「お兄ちゃん」です。上の兄は寛大な性格で教師、二番目の兄は大学の教授でした。

どちらにお住まいでしたか？

木幡 小学生時代は東京の荻窪に住んでいて、疎開先として福島の相馬に移りました。戦争中は手作りパンやお芋をおやつとして食べていました。農作物を育てるお手伝いもしました。

学生時代は、どんなでした？

木幡 “午年なので足が早かった”です。リレーの選手として活躍しました。でも、習字は苦手でした。

教師になろうと思ったきっかけは何ですか？

木幡 給料がいいし、安定しているから。(笑)

ご主人との馴れ初めはどうでしたか？

木幡 同じ中学で働いていたんです。校長先生に仲人をしていただきましたが、歳が10才年上離れていたもので、反対されました。結婚後は同じ中学で働くことが出来ず、他校へ異動しなければならなかった。夫は生徒に慕われていて、家に生徒がよく遊びにきていました。でも、酒飲みだったのよ。私も、生徒には慕われ、よく遊びに来ていたわね。

お子さんは何人ですか？

木幡 三人で、みんな男の子です。教師を続けながら子供を育てました。仕事をしながらの子育ては大変でしたよ。

(聞き手: 西川智恵)



木幡秀子さん(左)、後ろは釣ったヒラメを手に自慢顔の加藤職員

生きる力を信頼して

あんず居宅介護支援事業所 岩橋 多恵子

ケアマネジャーとして、毎日新たな出会いに恵まれる毎日です。その中には入院して治療はしたけれど、「自宅で生活するのは難しいのではないか」「施設に入所したほうがよいのではないか」と医師に勧められても、ご本人は「自宅で暮らしたい」と強く願い、ご家族もできることならその希望を叶えてあげたいと、不安な思いがありながらも在宅復帰される方も多くいらっしゃいます。特に一人暮らしの方は支援体制を整えても、どうしても一人になってしまう時間があるし、必要と思われるサービスをお勧めしても「自分でできるから大丈夫」と言われてしまうこともあります。内心、大丈夫かな、と心配していても、日を重ねるごとに徐々に以前の生活感覚を取り戻し、一人でできることが増えていったり、自分でやろうと思う気持ちが強くなっていきます。

ケアマネ

の

こころ

前号で、沼看護師が“自宅で過ごす効き目ってすごいな”と書いていましたが、本当にその通りです。

重大な病気の療養生活の中で「練習も難しいかな」と話していたのに、さんしょうでウクレレを演奏し、みんなの心を癒やしてくださったAさん。孫へのプレゼントすることを楽しみに難しい作品づくりに取り組むBさん。物忘れがあっても、デイサービスの集金袋の中に「いつもありがとうございます」というメモをそっと入れる気遣いを忘れないCさん。義足で退院して新しい家に住むことになったけれど、ご自分で使いやすいように環境を工夫しているDさん。

身寄りがなく「一人が気楽」と話していたEさんも、ヘルパーさんの手作りご飯や親身な対応に、「また働きたい」という意欲を持ち始めています。

ご家族の支え・思いも、私たちは代わることはできません。お母さんの傍に最期まで寄り添い、毎晩ベッド隣のソファで休んでいた娘さん。点滴中のお母さんの腕の苦痛を和らげようとずっと手を添える息子さん。洗い直しが必要でも毎食後食器を洗うお母さんに「ありがとう」と伝える娘さん。体が思うようにならなくても父親であり続けようとする気持ちを尊重し介護する息子さん。

ひとり一人の生きる力、生活する力は、ケアマネジャーが“管理”できるものではありません。その方の持つ力を信じて、住み慣れた自宅での生活がいつまでも続けられるように支援していけたらと思います。

今月の屋上太陽光発電量は、

927KW



幸樹会館電力使用量 5607KW 自給率 16.54%



デンマーク便り...⑩

ラスムッセン 京子

9月末から10月初め、何処の教会でも収穫を祝い神に感謝し分かち合う事の大切さを語る牧師のお説教があり、収穫を象徴する斧、カボチャ、花などが飾り付けられ、賛美歌がうたわれます。

9月29日は「聖ミッケルの日」です。ミッケルは人の魂の清らかさが分かり、天国に行けるかどうかは彼が判断したと言われていています。雇われ農民は、ミッケルの日に雇用先農家を替えることができるとされ、この日に条件のいい農家へと移って行きました。

収穫祭はミッケルの日前後、作業をした人々全てが招かれ収穫の宴が賑やかに開かれます。中世から今に至るまで、ご馳走にビール、シュナップス（じゃが芋焼酎）が振る舞われます。農家の一番大きなサルーンと呼ばれるお部屋が飾り付けを施され、ご馳走を食べた後はダンスパーティーとなります。中世には藁人形を収穫の荷の上に立て、藁人形を完成させた人が真っ先にダンスを始めるという習慣がありました。

収穫を祝う伝統が続く

現在、デンマーク農業は機械化が進み農業人口は少ないのですが、まだ秋は収穫祭という共同観念があると言っていいでしょう。小中高校では、秋休みが第42週（10/14～22）にあります。10月13日は文化の夜という事で、16時から全ての博物館や美術館の入場が無料になり無料のコンサート、劇、講演会、研修会などが町中で行われます。

農業労働者が農場主に全ての賃金を支払ってもらって新しい職場へと移ったように、現在



も、就労の対価が支払われ、修学の慰労と激励がされるときです。私の病院でも必ず一年に一回残業手当が支払われます。この臨時収入は秋休みのバカンス資金となることが多いのです。若い家族は最後の太陽を求めてトルコや地中海の島へ、あるいは余裕のある人は別荘へ、日曜大工や庭の手入れに励みます。

9月の最終土曜日の夜中、冬時間にするため1時間時間を戻します。この夜は1時間だけ長いのです。

北欧の秋は、急激に日照時間が少なくなると感じます。もうすぐ来る冬は朝薄暗い中を起床して、一日が始まります。1時間遅らせることで少しは明るい朝が迎えられます。

日本の様に夏と冬の日照時間があまり変わらないというほうが生活がしやすいと思います。日本の秋を秋祭り、文化の秋そして食欲の秋と楽しんでください。

復興、いまだ厳しい

三陸山田町を訪問



佐藤理事長(左から2人目)・息子のだいすけ君(真中)

今年も9月22、23日、岩手県山田町の復興支援見舞いに行ってきました。障がい者支援事業で山田町のリサイクル事業を一手に引き受けているやまだ共生会理事長の佐藤照彦さんに、現状について話をさせていただきました。山田町の現状は、整地造成作業は今年度中には完了しそうだが、17%の人口減少もあり、特に子供は20%減、住宅や店舗が震災前のように建てられるかわからない。基幹産業の漁業も温暖化の影響や病気でホタテの成長が悪い、サンマも芳しくない。確かに、去年はびっしり山田湾を埋めていた養殖筏が少ないようでした。小規模沿岸漁民にも鮭漁ができるよう裁判をたたかっている、などの話がありました。保育園の廃園、小学校を統合する動きも進んでいて、高齢者も一人暮らしが難しくなり、子ども家族が住んでいる他の地域に移住する人も増加しているという話に、私はとても驚きました。医療分野でも、町の中心病院で、熱心に在宅医療に進めていた医師が異動してしまい、医師減少・在宅医療・地域医療が後退する悪循環に陥ってしまわないか心配だと話していました。大震災以来毎週続けている「お茶っこの会」は335回になりましたが、高齢者の送迎サービスは補助金がなくなり来年3月には残念ながらやめざるを得なくなったと話していました。私たちも募金を手渡してきました。翌日、船越湾で中村敬二船長の成田丸でヒラメ釣り。5名で15枚の釣果、後日さんしょうで刺身などに調理して提供し、喜んでいただきました。(加藤義幸)

職員募集！非営利・働きがいある職場

薬剤師・看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550